

新規・継続等	新規	分野	主要な道路の整備		事業番号	38	事業名	道路改築(地方道)			
市町村名	まつかわまち 松川町		ふりがな 箇所名	いしいまいいだせん かみかたまじり (主)飯島飯田線 上片桐			事業年度 (完了年度は見込み)	年度～		年度	
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	道路築造工 L=400m W=6.0(12.0)m					H22年度末事業進捗率	0%			
	H23年度以降実施内容	同上					本工事費等ベース	0%			
	H23年度実施内容						用地補償費ベース	0%			
	年度	全体事業費	H21年度まで	H22年度	H23年度	H23年度以降残					
財源内訳	事業費計(千円)	300,000	0	0	0	300,000					
	国庫支出金	165,000	0	0	0	165,000					
	その他										
	県債										
	一般財源	135,000	0	0	0	135,000					
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価			部	政策評価課		
					ランク	評点	ランク	評点			
	必要性 (25)	計画交通量	10,000台/日以上	1,500台以上～10,000台/日未満	1,500台未満	A	2	A	2		
		代替道路	唯一の道路である	代替となる道路がある			0		0		
		ネットワーク (道路網)	駅やインターチェンジが20km以内にある	駅やインターチェンジが20km以上にある	駅やインターチェンジに通じる路線でない		5		5		
			通行不能区間、冬期通行規制の解消又は市街地の活性化に資する路線である	山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセスに寄与する	山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセス、市街地の活性化に寄与しない		2		2		
		観光地に通じる道路	観光地に通じる道路ではない		2		2				
		各事業特有の必要性(安全の確保)	5.5m未満又は6.0m未満又は6%以上(幅員、半径、勾配)	5.5m以上6.5m未満(幅員)	6.5m以上(幅員)		4		4		
			歩道未整備区間に歩道を設置	歩道はあるが不十分であるものを再整備	歩道整備無し		4		4		
	小計					19		19			
	重要性 (15)	関連計画との整合	県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(2個以上)	県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(1個)	該当なし	B	4	B	4		
		設計上の環境配慮	環境配慮がされ現実性が高い	環境配慮がされているが現実性が低い	環境配慮をしていない		2		2		
		地域の法的な位置付け	緊急輸送路(1次)に位置付けられている	緊急輸送路(2次)又は、奥産、雪害、過剰に位置付けられている	特別な位置づけはない		3		3		
	小計					9		9			
	効率性 (15)	B/C(費用対効果)	B/C 1.5以上	B/C 1.0～1.5未満	B/C 1.0未満	B	4	B	4		
		事業効果の早期発現(H20以降残事業年数)	事業年数 5年未満	事業年数 5年～10年未満	事業年数 10年以上		3		3		
		コスト縮減	全体的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	部分的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	コスト縮減はしていない		2		2		
	小計					9		9			
	緊急性 (25)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる	交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる	交通事故や落石等の危険がない	A	9	A	9		
		各事業特有の緊急性(渋滞対策・環境保全)(医療・福祉・教育)	渋滞箇所が緩和する	渋滞箇所ではないが、朝夕の局部的現象を緩和する	渋滞対策ではない		4		4		
			医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)	医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)	医療・福祉の連携に関係ない道路		9		9		
	小計					22		22			
	計画 熟度 (20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い	市町村からの要望	特に要望がない	B	6	B	6		
		事業情報の共有	関係者以外に広く周知	関係者中心に周知	特に周知していない		0		0		
		住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加	住民や市町村の意見を計画策定に反映	特に住民意見は反映していない		4		4		
小計					10		10				
費用対効果(B/C)	1.2			評価の合計			B	69	B	69	
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、飯田、伊那地方生活圏を結ぶ幹線道路であるとともに中央自動車道の迂回路として利用されていますが、現道は幅員が狭く、急カーブが連続しており、中央自動車道が通行止時には長時間にわたる交通渋滞が頻りに発生していました。このため歩行者の安全確保及び渋滞解消が求められ、事業が必要となった。									
	地域からの要望経緯	B P地元推進委員会設立総会開催(H6.8)を機に毎年要望活動がある。									
	事業説明等の経緯	未実施。									
	環境・景観への配慮項目	切土・盛土面にはコンクリート構造物を出来るだけ避け、草花の種子により法面保護をしている。									
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。									
特記事項	地元推進委員会や町を通じ、工事や事業計画について情報共有を図っている。										
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他						
部意見	必要性の評価レベルは高い。今後計画熟度を高め、事業化を検討したい。			政策評価課意見	必要性は認められる。						